

大会要項

1 研究主題 文字を大切にし、生きる力をはぐくむ書写学習
 —— 基礎・基本を身に付け、自ら取り組む書写学習 ——

2 日程

8:30 9:00 9:45 10:00 11:00 11:20 12:00 12:50 15:30

受付	公開授業	移動	授業研究会	移動	全体会 I	昼食	全体会 II			
					沖洲小学校の取り組み		提案発表	開会行事	講演	閉会行事

3 公開授業

学年	授業者	場所	単元
たんぽぽ	藤永 容 竹内 千恵 高橋 香織	たんぽぽ 学級	「たんぽぽショップ」を開こう ～案内状・表示物を書こう～
1年	福原 由美子	1年3組	かん字の学しゅう
2年	藤岡 美千代	2年4組	かん字の学しゅう
3年	長谷部 貴子 蔭田 玉恵	3年3組	筆使いの学習
4年	吉成 郁美	4年3組	文字の組み立て方
5年	秋田 泰宏	5年2組	文字の組み立て方
6年	林 哲史	6年2組	字配りの達人

4 授業研究会

学年	司会者	記録者	指導助言者
たんぽぽ	石川 功 (井内小)	近藤 雅江 (方上小) 阿部 玲子 (佐那河内小)	坂東 照代 (土成小)
1年	園尾 淑子 (加茂小)	近藤 明美 (八万南小) 平 美由紀 (助任小)	多田三津子 (北島小)
2年	高岡 和恵 (池田小)	稲積真由美 (城東小) 三谷 益代 (上八万小)	矢木麻由美 (高川原小)
3年	西岡田さつき (足代小)	森本千寿子 (内町小) 尾崎 宏子 (助任小)	篠原 美樹 (大松小)
4年	中妻 稔子 (箸蔵小)	久米 佳恵 (不動小) 野村 幸子 (川内北小)	武田美智子 (松島小)
5年	森 祐大 (吾橋小)	石川 綾美 (渋野小) 寺内 勝博 (福島小)	工藤 倫子 (昭和小)
6年	高原 啓子 (三庄小)	三木 直美 (南井上小) 田中 将太 (津田小)	吉成左由三 (北井上小)

5 提案発表

学年	発表者	司会者	記録者	指導助言者
1.2年 (複式)	藤川 美香 (政友小)	横田 順子 (八万小)	田内 幸代 (加茂名小) 佐光 祥子 (論田小)	蓑毛 政雄 教授 (四国大学)
4年	松本 珠実 (王地小)			

6 講演

「書くことの重要性」

四国大学教授 蓑毛 政雄 先生

文字を大切にし、生きる力をはぐくむ書写学習

— 基礎・基本を身に付け、自ら取り組む書写学習 —

徳島市沖洲小学校

1 研究主題について

「文字を大切にする」とは、先人が残した文字文化に学び、培った文字の知識を生かし、目的や場面に応じた形式を選んだり、読み手の気持ちを思いやりながら丁寧に書くことであると考え。また、その際に用いられる用具等についても大切に扱うことであると考え。携帯電話やパソコンなどの通信機器の発達にともない手書き文字離れ現象が進行して久しく、印字が手書き文字より体裁がよいといった価値観が浸透しつつあるように思われる。しかし、このような現状だからこそ、手書き文字の楽しさや大切さを子どもたちに伝えたい。

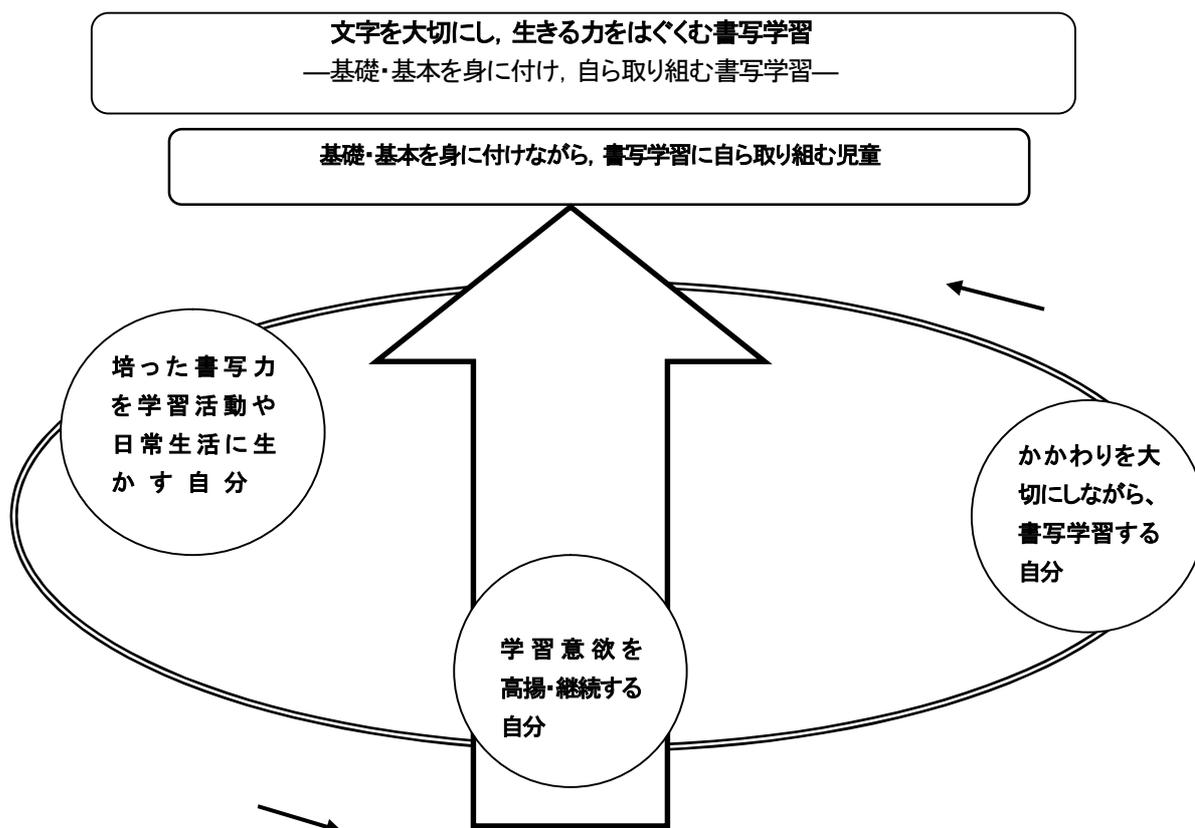
「生きる力をはぐくむ」とは、前述した「文字を大切にする」活動の中で、「自ら」課題を持ち、「自ら」学び、「自ら」考える力をはぐくむことであると考え。そして、これら「自ら取り組む」態度や力が育つにつれ、書写学習に生き生きと取り組むことができると考える。また、この課題解決の過程において見る力や考える力が養われ書く喜びが高まると、他の学習や日常生活にも生かすことができるようになる。このように他に生かす力を育てることも「生きる力をはぐくむ」ことであると考え。

この「文字を大切にし、生きる力をはぐくむ」ためには、文字や用具などについて「基礎・基本」の知識や技能を身に付けることが必要である。「基礎・基本」とは、小学校学習指導要領・国語科「言語事項」(2)の書写に関する項目に示されている各学年の内容であり、文字を整えて書くための重要な要素である。また、これら知識や技能に限らず、文字を大切にし、正しく整えて書こうとする意欲・態度や文字へ関心も「基礎・基本」ととらえたい。

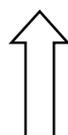
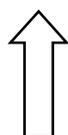
本校の子どもたちの実態調査を行ってみると、いろいろな問題点が見えてきた。全学年を通して姿勢が悪く、正しい姿勢を保つための体幹がしっかりしていないことがわかった。また、用具については、全学年を通して質の良くない鉛筆や消しゴム、半紙などを使っているために、一人ひとりの実態に合った書字活動が思うようにはかどっていないことがわかった。そして、鉛筆・筆の持ち方や、止め・はね・はらいなど基本の技能は、学年相当の基礎・基本の力が身に付いておらず、高学年になるとPOP体などの漫画文字が増えてくることや、書写の時間に書く文字と普段のノートに書く文字では丁寧さに違いが出てくることわかった。文字を書く事への意識調査では、硬筆も毛筆も下学年ほど好きな児童が多く、高学年になるにつれて少なくなっていた。下学年が硬筆を好きな理由としては、「いろんな文字が出てくるから」「きれいに書けるようになるから」など初めての書字活動に興味や関心を持って取り組むことができ上達も早いと、意欲を持って取り組むことができていると考えられた。しかし、高学年になると「難しい」「うまくならない」など、見る力が育ってきているのに技能が思うように上達しないことから、興味や意欲が減少していると考えられた。この高学年の興味や意欲の現象は、「使いやすい道具をそろえようとしていない」ことや「学習に必要な道具を忘れる」ことなど授業態度からも推測することができた。

このような実態から、子どもたち一人ひとりに「文字を大切にし、生きる力をはぐくむ書写学習」を進めるためのたくさんの課題が見えてきた。これまでの書写学習のあり方や日常生活との関連、保護者への働きかけ、用具の扱い方などについて見直すことから始め、子どもたちが「自ら」興味や関心、意欲を持って取り組めるような書写学習を進めていくこと、そのためには書写学習における基礎・基本を明確にすることも課題であると考え、本研究主題を設定した。

2 研究の仮説と全体構想



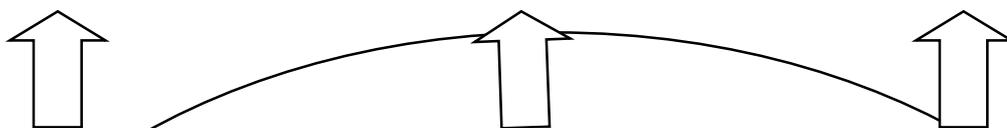
	培いたい書写力を年間計画に	より主体的な学習活動に	評価活動の工夫と日常化を
具体的な研究内容	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態把握 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート、授業観察 ○学習内容の精選 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の確認 ○系統性のある年間計画 <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の年間計画の見直し ・主体的学習を旨とした単元構成 他教科との関連 行事との関連 日常生活との関連 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習過程の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・つかむ→高める→確かめる→生かす ○学びの場の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・風車方式の座席 など ・練習コーナーの工夫 など ○教具の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルコンテンツの利用 ・ワークシートの工夫 など ○ティームティーチング 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価の基礎研究 ○評価基準の明確化 ○相互評価と自己評価 ○学習内容の日常化 <ul style="list-style-type: none"> ・ノート、連絡帳、日記、手紙 など



研究の仮説	<p>1 書写における基礎・基本の捉え方を明確にし、各学年にあった基礎・基本を精選することを通して、子ども及び教材を研究するとともに、年間計画を作成し、単元構成すれば、子ども一人一人が自ら書写学習に取り組むであろう。</p>	<p>2 つかむ・高める・確かめる・生かすの主体的な学習過程を工夫するとともにより効果的な教具の工夫をすれば、子ども一人一人が文字を大切に自ら書写学習に取り組むであろう。</p>	<p>3 他とのかかわりを大切にする中で、自分を見つめたり、友達のよさを認め合ったりする評価活動を工夫するとともに、身に付けた書写力を日常の現実生活に生かしていけば、子ども一人一人が自ら書写学習に取り組むであろう。</p>
-------	---	--	--

かかわりを大切にしながら書写学習する自分とは

	低学年	中学年	高学年
培 い た い 書 写 力	○姿勢や用具の持ち方を正しくし、丁寧に書く	○文字の組み立てに注意し、形を整えて書く ○文字の大きさや配列に注意して書く	○文字の形、大きさ、配列等を理解し読みやすく書く
	○点画の長短、接し方、交わり方などに注意して書く	○毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組み立て方に注意しながら、文字の形を整えて書く	○毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組み立て方を理解しながら、文字の形を整えて書く
	○筆順に従って文字を正しく書く	○毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組み立て方に注意しながら、文字の形を整えて書く	○毛筆を使用して、字配りよく書く



かかわりを大切にしながら、書写学習する自分

	低学年	中学年	高学年
文字	・正確に書き写す	・適切に書く	・自分で判断して書く
モノ	・用具・用材の使い方を学ぶ	・筆の使い方を学ぶ	・目的に合わせて選ぶ
ヒト	・友達と楽しく取り組む	・友達と助け合う	・友達の良さに学ぶ

文字を大切にして、自ら文字に興味・関心を持つ児童

文 字

自 分

ヒトを大切にして、自ら友達とかかわり、互いによりとえ合いをする児童

モノ

ものを大切にして、自ら用具・用材を効果的に使う児童

ヒ ト



培った書写力を学習活動や日常生活に生かす自分



学習意欲を高揚・継続する自分



研究の仮説と文字・モノ・ヒトとの関連

	培いたい書写力を年間計画に	より主体的な学習活動に	評価活動の工夫と日常化を
具 体 的 な 研 究 内 容	文 ○児童の実態把握 ・アンケート，授業観察 ↓ 筆っちマン体操 ○学習内容の精選 ・基礎基本の確認（指導要領） ○系統性のある年間計画（指導書他） ・各学年の年間計画の見直し ・サマースクールでの寺子屋風書道教室 ○主体的学習を旨とした単元構成 ○文字環境の工夫	○主体的な学習過程の工夫 ・つかむ→高める→確かめる→生かす ○お手本の工夫 ○文字の成り立ちや歴史	○評価の基礎研究 ・診断的評価 ・形成的評価 ・総括的評価 ・相互評価と自己評価 ・評価規準の明確化 ○学習内容の日常化（文字意識） ・ノート，連絡帳，日記，手紙など
	モ ○教材研究 ・ワークシートの位置づけ ・練習コーナーの研究	○教具の工夫 ・デジタルコンテンツの利用 ・ワークシートの工夫 ・練習コーナーの工夫 ・分割用紙の利用 ・姿勢や筆使いを正す工夫 ○用具・用材の工夫 ・準備・片付け・整頓の工夫 ・筆や半紙の精選と一括購入 ・姿勢や筆使いを正す補助具の工夫	○用具・用材の扱い方の評価 ○学習内容の日常化（モノ意識） ・ノート，連絡帳，日記，手紙など
	ノ ○行事や生活とのタイアップ ・運動会の招待状うちわ ・総合や生活科でお世話になった人へのお礼状など	○ティームティーチングの活用 ○子ども同士の学びの場の工夫 ・風車方式の座席，ペア学習など ○文字環境の工夫	○相互評価 ○学習内容の日常化（相手意識） ・ノート，連絡帳，日記，手紙



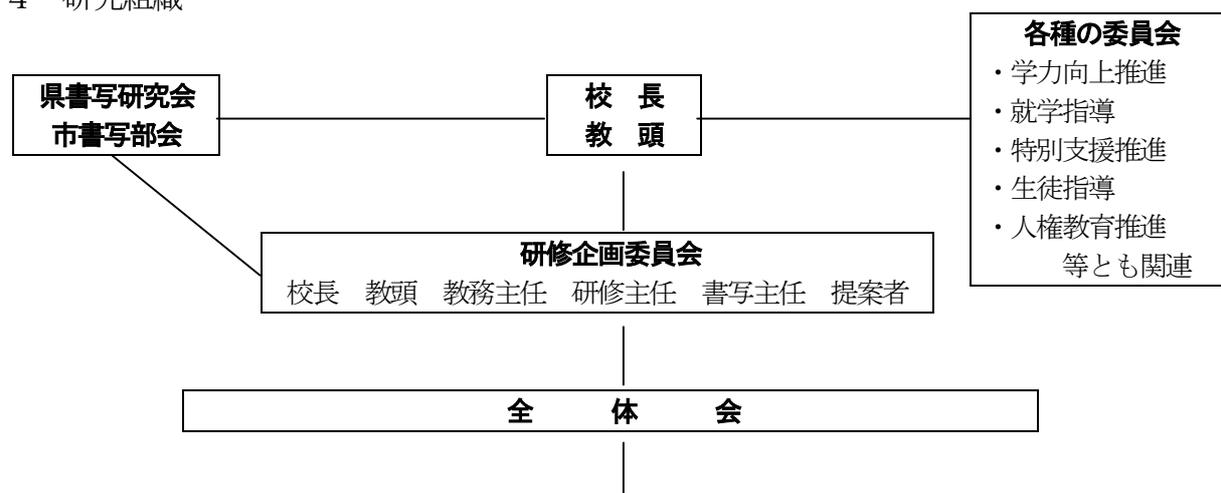
研 究 の 仮 説	1 書写における基礎・基本の捉え方を明確にし，各学年にあった基礎・基本を精選することを通して，子ども及び教材を研究するとともに，年間計画を作成し，単元構成すれば，子ども一人一人が自ら書写学習に取り組むであろう。	2 つかむ・高める・確かめる・生かすの主体的な学習過程を工夫するとともにより効果的な教具の工夫をすれば，子ども一人一人が文字を大切にして自ら書写学習に取り組むであろう。	3 他とのかかわりを大切にすることで，自分を見つめたり，友達のよさを認め合ったりする評価活動を工夫するとともに，身に付けた書写力を日常の現実生活に生かしていけば，子ども一人一人が自ら書写学習に取り組むであろう。
----------------------------------	--	---	--

3 研究のあゆみ

年度	月	研究のあゆみ
18	12	○児童からの聞き取り調査と担任の観察による実態調査
	1	○児童からの聞き取り調査と担任の観察による実態調査まとめ
	2	○校内書写部員話し合い（授業の進め方・用具の見直し・筆っちマン体操発案）
19	3	○校内書写部員話し合い（H19年度に向けて） ○平成19年度書写部会研究主題について確認 ○平成19年度に向けて用具の共通理解と作成
	4	○学校教育目標等と研究主題の位置づけ 研究の仮説 研究の構想
	5	○平成19年度書写部会研究主題と研究の視点の明確化 研究体制の確立
	6	○研究授業 4年2組 筆使いの学習「結び」 秋田 泰宏 教諭 (指導助言 昭和小 工藤 倫子 教諭)
	7	○研究授業 2年2組 かたかなを正しく書こう 福原 由美子 教諭 (指導助言 北島小 多田 三津子 教諭)
	8	○学年ごとに疑問や問題点等の整理・検討→全体での協議 ○書写研修 「土成小学校（第30回統一大会開催校）の取り組みについて」 (講師 土成小 坂東 照代 教諭) ○書写研修 「書写指導について講義と実技研修」 (講師 森岡 進 先生)
	10	○児童の実態調査 ○徳島市書写部会・授業研究会参加
	11	○児童の実態調査について検討会および報告 ○第48回全日本書写書道教育研究大会香川大会参加 及び 参加報告 ○研究授業 3年2組 筆使いの学習「かたかな」 仁木 円香 教諭 (指導助言 県教委総合教育センター 小川 陽子 指導主事)
	12	○研究授業 1年3組 かんじの学習 藤岡 美千代 教諭 (指導助言 高川原小 矢木 麻由美 教諭) ○研究授業 6年2組 字配り「漢字とひらがな」 林 哲史 教諭 (指導助言 北井上小 吉成 左由三 教諭)
	1	○研究授業 5年2組 文字の大きさ「会う」 大倉 由香里 教諭 (指導助言 清水 猛 先生) ○平成19年度校内研修の反省と来年度への課題
	2	○県書写部会主題研究会
	3	○来年度へ向けての共通理解 ・平成20年度書写部会研究主題と本校の研究主題について共通理解 ・指導案の形式と評価方法について共通理解

年度	月	研究のあゆみ
20	4	○平成20年度研究主題および研究組織について確認
	5	○学年研修 「環境・掲示と指導案について」 ○書写研修 「書写指導の基礎・基本について」 (講師 四国大学教授 蓑毛 政雄 教授)
	6	○児童の実態調査 ○学年研修 「児童の実態と課題について」 ○徳島市書写部会・授業研究会参加 ○研究授業 たんぽぽ学級 たんぽぽキャンプに行こう T1 竹内 千恵 教諭 T2 藤永 容 教諭 T3 高橋 香織 教諭 (指導助言 土成小 坂東 照代 教諭)
	7	○研究授業 3年3組 筆使いの学習「はらい」 T1 長谷部 貴子 教諭 T2 蔭田 玉恵 教諭 (指導助言 大松小 篠原 美樹 教諭) ○研究授業 2年4組 かたかなの学習 藤岡 美千代 教諭 (指導助言 高川原小 矢木 麻由美 教諭) ○研究授業 6年3組 文字の大きさ「漢字どうしの大きさ」 三木 輝記 教諭 (指導助言 北井上小 吉成 左由三 教諭) ○研究授業 1年3組 ひらがなの学しゅう 福原 由美子 教諭 (指導助言 北島小 多田 三津子 教諭) ○研究授業 4年3組 点画のつき方・交わり方 吉成 郁美 教諭 (指導助言 松島小 武田 美智子 教頭) ○研究授業 5年2組 文字の組み立て方「偏旁」「冠脚」 秋田 泰宏 教諭 (指導助言 昭和小 工藤 倫子 教諭) ○書写研修 「学年別指導案検討会」 ○書写研修 「校内指導案検討会」「環境・掲示について」
	8	○第32回 県小学校書写教育研究大会 第1回事前研究会 ○第32回 県小学校書写教育研究大会 第2回事前研究会
	9	○学年研修 「教具、環境・掲示について」
	10	○学年研修 「教具、環境・掲示について」
	11	○第32回 県小学校書写教育研究大会 事前準備 ○第32回 県小学校書写教育研究大会 前日準備 ○第32回 県小学校書写教育研究大会
	2	○県書写部会主題研究会
	3	○平成20年度校内研修の反省と来年度への課題

4 研究組織



	ねぎっ子調整隊（研修）	ねぎっ子まなび隊（授業）	ねぎっ子生活隊（環境）	
目的	○研究主題の共通理解をはかる ○全体の調整をはかる	○児童の書写力の向上をめざし、効果的な指導方法を研究する ○子どもの鉛筆や筆の持ち方、書く姿勢を改善するための効果的な指導方法の研究を行う ○国語や総合的な学習、行事などとの関連をふまえ、生活に根ざした書写教育を進める	○書写学習への意欲を高めるための用具や環境を整備していく ○統一大会当日の掲示物や掲示方法を考え、準備していく	
内容	○研修計画 ○実態調査 ○研究主題の分析 ○研究要項作成 ○掲示計画	○年間指導計画作成 ○教材開発 ○評価方法の研究 ○学習指導案の作成と検討	○教材・教具の掲示計画 ・児童の作品と写真の整理 ○体育館その他の場所の掲示計画 ・学年掲示場所割り当てと確認 ○各学年掲示計画と掲示 ・各学年の年間計画掲示と児童の作品掲示	
構 成	特	・指導教諭 岡島千代子 ・教務主任 蔭田玉恵 ・研修主任 笹田みすえ ・書写主任 長谷部貴子		
	低	たんぽぽ（主）藤永容 竹内千恵 高橋香織	たんぽぽ 竹内千恵	
	中	1年生 福原由美子（主）中野千尋 2年生 藤岡美千代（主）青木雅子	1年生 小林綾子 2年生 富永由里	
	高	3年生 長谷部貴子 蔭田玉恵 （主）渡辺美知子 4年生 吉成郁美（主）竹内洋	3年生 山口有美 4年生 志内良妃	
	高	5年生 秋田泰宏（主）萩沢哲司 6年生 林 哲史（主）岡島千代子	5年生 大倉由香里 6年生 三木輝記	
	学年協力者	たんぽぽ 前田由紀 3年生 蔭田玉恵	1年生 寺橋三子・新田佳加 2年生 金森映人 4年生 板東小百合 5年生 元木里香 6年生 樋谷久代	

生活単元学習（書写）学習指導案

たんぼぼ学級 児童数 10名

（情緒障害学級9名・知的障害学級1名）

指導者 T1 竹内 千恵

T2 藤永 容

T3 高橋 香織

- 1 単元 「たんぼぼショップ」を開こう
～案内状・表示物を書こう～

2 単元について

（1）単元の中での「文字を書くこと」の意義

本学級では、毎年1月に開催されるPTAバザーの日に「たんぼぼショップ」を開いている。そのため、春先から、ショップ本番に向けて、計画的にバッグやナプキン袋などの製作に励んでいるところである。

さて、この単元には、物を製作する学習だけではなく、「文字を書くこと」に関する学習が数多く含まれている。本時の学習で取り組むショップ案内のポスターやちらし作り、案内状書き、値札・製品名表示書き、看板・会場への案内表示書きなどである。その他にも、製作過程をパネルにしたり、礼状を書いたり、アルバムにまとめたりと幅広い活動がある。いずれも、たんぼぼショップの活動に必要なものであるため、字形を整えることや運筆などが難しい児童にも、買い手（読み手）を意識して、正しく丁寧に書くことが期待できる。

これまでも、行事のたびにお世話になった人に礼状を書いたり、入学式などのお祝いの表示を書いたり、毎日、日記をつけて家族に学校生活の様子を知らせたりと、積極的に書く活動を取り入れ、文字を通して自分の気持ちを相手に伝える喜びを感じてきた。

この単元でも技能的な指導にとどまらず、自分の書いたものが、たんぼぼショップの運営や多くの人々との交流に役立っていることに気付かせ、その喜びを味わわせた。それにより、児童の心に自信が芽生え、情緒が安定して、明るく豊かな生活を送ることにつながっていくと考える。

（2）児童の実態

たんぼぼ学級児童10名は、障害の種類や程度が様々であるように、文字の理解、運筆の技能、姿勢の保持などについても、個々に大きな違いがある。しかし、どの児童も書字活動を好んでおり、文字が正しく丁寧に書けたときに褒められると嬉しそうな表情を見せる。また、自分が感じたことが文章で表せたときには、気持ちと文字が一致したことへの満足感が読みとれる。

個々の実態は別紙のとおりである。

(3) 「文字を書くこと」の指導にあたって

文字を書くことは、筆記具を持つことから始まるのではなく、運動機能や視知覚など全面的な発達を促すことから始まる。そのため、次の点に留意して指導にあっている。

①運動機能を育てる

遊んだり運動をしたりする中で、足腰を安定させ、肩や腕、肘や手首が自由に動くようにする。衣服の着脱や食事、洗濯、清掃など生活の随所で手指を使う機会をとり、手指の操作能力を高める。また、運動することで体力を向上させ、学習への集中力を高める。

②見る力を育てる

対象物を注視したり追視したりすることは、手本をよく見て正しく文字を書くことの基礎になる。ボール遊びや跳び箱運動などで目と身体を協応する力を養ったり、日常生活において、衣服をたたむことやゴミを掃き集めることなどで、目と手を協応する力を育てたりする。また、手縫いやミシン縫いなどにも日々取り組んで、手指の巧緻性を高めると共に見る力を育てる。

③文字への関心を育てる

文字が読めるようになる年齢が遅く、文字に親しんできた期間が短い児童が多いので、意図的に文字に関する関心を育てる。学校生活の中では、ゼッケンやロッカー、持ち物などに書かれた名前を読ませたり、物の名前が書かれた引き出しに分類して道具を整理させたりする。外出時にも看板やバス停の表示を読ませるなどして、文字の便利さにも気付かせていく。

④言葉の力を育てる

文字を学ぶときには、書き順を表す数詞、長い短い、太い細い、広い狭いなどの形容詞、縦、横、ななめ、左、右など方向を表す言葉、曲がる、折れる、そるなど、動作を表す言葉などたくさんの言葉を理解することが必要である。反対に、文字を学ぶ過程で言葉を育てていくことにもなるので、常に適切な言葉を使うようにする。

⑤聞く力を育てる

指示されたことが聞けなかったり、一方的に話していたりする児童を学習に取り組ませようとしても、その内容は身に付きにくい。普段から、学習中の私語は慎み、指示をよく聞いて活動できるようにする。

⑥継続して指導する

毎日の連絡帳や日記を書くときも、五十音の手本を横に置かせ、正しく書けるように根気強く指導を続ける。運筆の方法や筆圧の度合などは、手を上から握るなどして身に付けさせる。様々な行事や単元学習で書く活動を取り入れる。

3 単元の目標

- (1) 役割をもって書くことにより、伝わることの喜びや楽しさを感じ取ることができるようにする。
- (2) たんぼぼショップに必要な表示物や案内状などを、正しく丁寧に書くことができるようにする。

4 単元計画 (60時間「文字を書くこと」の指導は6時間・単元全体の計画は別紙)

○ 案内状を書く (案内状・値段表・宛名書きなど)	}	1時間 (本時)
○ 製品表示を書く (製品名・値札など)		
○ 会場表示を書く (看板・ポスター・会場案内など)		
○ 製作過程の紹介パネルを書く	_____	2時間
○ 礼状を書く	_____	1時間
○ アルバムを書く	_____	2時間

5 本時の学習

(1) 目標

- A 1年・・・①案内状を鉛筆で4枚書く。
②姿勢を正して、点画の向きに気をつけて書く。
- B 4年・・・①値段表を鉛筆で4枚書く。
②鉛筆の持ち方に気をつけて、カタカナの筆順を正しく書く。
- C 5年・・・①全校児童に配布する案内状(ちらし)を鉛筆で1枚書く。
②文字の大きさを考えながら、読みやすく書く。
- D 5年・・・①フェルトペンで封筒4通に住所と宛名を書く。
②姿勢を正して、文字の配列に気をつけながら書く。
- E 4年・・・①フェルトペンでシールに値段を書く。
②数字の字形に気をつけて、正しく書く。
- F 6年・・・①毛筆で、製品名5品と値段を書く。
②読みやすいように、字配りよく書く。
- G 5年・・・①毛筆で「売り切れました」という表示を10枚書く。
②文字の大きさに気をつけて書く。
- H 4年・・・①毛筆でポスターに題字と期日、場所を書く。
②読みやすいように、字配りよく書く。
- I 6年・・・①毛筆で看板を書く。
②文字の大きさや太さを考えて書く。
- J 6年・・・①毛筆で案内表示「たんぼぼショップ」を書く。
②はねやはらいに気をつけて書く。

(2) 展開

学習過程	学習活動	全員の学習活動 ・ 個々の学習活動 教師の指導・支援									
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
つかむ	1 たんぼぼショップに必要な表示等を思い出し何を書くかを決め、学習のめあてをつかむ。	昨年のショップの写真を見たり、話を聞いたりして思い出す。 3つの係に分かれることを知る。 T2 [案内状の係] 手紙 値段表 案内用ちらし 宛名 T1 [製品表示の係] 値札 製品名と値段 売り切れの表示 T3 [会場表示の係] ポスター 看板 会場案内									
高める	2 グループに分かれて書く。	みんなに伝わるように、正しくていねいに書こう。									
確かめる	3 表示物等を確認しながら、ミニたんぼぼショップの準備をする。	3つの係のグループに分かれる。 個人用手本を見て、めあてをもつ。手本の文字に書き込まれているマークに注目して書くよう支援する。 点画の向き(斜め) カタカナの筆順 文字の大きさ 読みやすさ 文字の配列 数字の字形 字配り 読みやすさ 文字の大きさ 字配り 文字の太さと大きさ はねとほらい 筆記用具を選び姿勢を正して書く。(鉛筆 または フェルトペン) (毛筆) 姿勢や持ち方を正しくさせ、必要に応じて補助具等を使わせる。(ア姿勢用補助具 イ足台 ウ握り用粘土 エ中心シール オ筆を持つ位置シール) アイ アイウ ア エオ イ ・誰に出すか、何枚書くのかを確認する。 ・5品分の値段を書く。 ・5品分の製品名と値段を書く。 ・「売り切れました」と10枚書く。 ・題字と期日、場所を書く。 ・「たんぼぼショップ」と10枚書く。 ・罫線を引く。 ・1枚書きコピーする。 ・4枚書く。 シールの余白部分に線を引いておく。 墨の含ませ方が適切か確かめさせる。 中心線を引いておく。 ・紙を四つ折りし封筒に入れる。 ・切手を貼る。 台紙に貼る。 ・切る。 用具などを片づける。 ・ちらしを参観者に配る。 値札を貼る。 ・表示物を掲示する。 乾いているか確認させる。									
生かす	4 表示物のよさを見つけ合い本時のまとめをする。	ミニたんぼぼショップで販売することによって本番への意欲をもつ。									

(3) 評価

- ・個人の目標を達成することができたか。

第1学年国語科（書写）学習指導案

1年3組 児童数 26名
指導者 福原 由美子

1 単元 かん字の学しゅう

2 単元について

本学級の児童は、書くことが好きで、みんなが文字を上手に書きたいという願いをもって、連絡帳やノート・ドリルの文字を丁寧に書いている。しかし、入学当初には、正しい姿勢で座っていてもすぐ崩れてしまったり、鉛筆の正しい持ち方ができている児童が一人しかいなかったりという実態であった。そこで、よい姿勢につながる体づくりを毎日の活動に楽しく取り入れ、また、持ち方の矯正具・「にぎりっこ（粘土を小さく丸めたもの）」や正しい姿勢の補助具（「あしゅちゃん」「おへそシール」）や姿勢の歌等で、根気強く指導を続けてきた。これらの指導を通して、次第に、正しく座ってられる時間が長くなり、持ち方も自分で意識できるようになってきている。休み時間には、「ひらがな・かたかなであそぼう」コーナーや「さわってみよう」コーナー・「かきじゅんゲー！」コーナー等で遊びながら、書くことに親しんでいる。これらのコーナーは、ゆずり合ったり、教え合ったり、友達との学びの場となっている。

夏休みまでに、書字活動のスタートとしてひらがなを学習し、基本的な運筆や書き順に気をつけて書こうとする態度が少しずつ身に付いてきている。そんな中で、国語科や生活科と関連して、習った文字を使って、「ねぎっこメール」で、自分のしたことや気持ちをメッセージにして家族に伝えた。楽しかったことや思ったことを心を込めて書き、それに対して、お家の人からも、感想や励ましの「おへんじメール」をもらい、読んでもらう喜びや伝える喜びを味わうという初めての体験もした。

前単元で児童は、かたかなの送筆や終筆の書き方を学習した。本単元「かん字の学しゅう」では、直線的な画や終筆・送筆の書き方を学習する。漢字は、運筆がかたかなと似ているので、「かたかなの学しゅう」との関連を図りながら学習を展開したい。本時は、「かくのおわり」の「はらい」の学習である。ひらがなやかたかなの「はらい」は、だんだんと力を抜いていく「左はらい」である。漢字の「右はらい」は、一度止めて、横に短くはらう書き方である。児童にとっては、初めて出会う終筆であるが、「左はらい」との違いに目を向けさせ、止める位置やはらいの長さ等、ポイントを示し、試し書きと見比べさせ、正しい「はらい」の書き方をつかませたい。また、一年生は指先の巧緻性がまだ十分でないので、大きな動作や具体物を使って、楽しく練習させたい。そして、自分や友達のをよさを認め合い、めあてが達成できたときの満足感や、認められたり褒められたりした時の喜びを味わわせ、楽しく意欲的に文字を書くことにつなげたい。

一年生の書字活動の中で、相手に伝えようとする気持ちをもったり、自分の文字を大切にしたりする心をしっかり育て、これからの生活で、書くことを通して、人とのかかわりを大切に思える豊かな心情を培いたい。

3 単元の目標

- (1) 自分のめあてをもち、互いのよさを認め合って、意欲的に学習できるようにする。
- (2) 漢字の始筆（書き出すところ）・送筆（「おれ・まがり・そり」）・終筆（「とめ・はね・はらい」）の書き方を理解して、正しく書くことができるようにする。
- (3) 漢字の書き順や画の長さ・方向・字形に気をつけて、正しく書くことができるようにする。

4 単元の評価規準

ア	国語への 関心・意欲・態度	① 自分のめあてをもち、楽しく学習に取り組もうとしている。 ② 自分や友達のよくなったところを見つけようとしている。
イ	言語についての 知識・理解・技能	① 始筆・送筆・終筆の書き方を理解して、正しく書くことができる。 ② 書き順や画の長さ・方向・字形に気をつけて、正しく書くことができる。

5 単元計画（11時間）

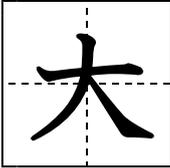
第1次	かくのおわり	…2時間（本時2／2）
第2次	かくのとちゅう	…2時間
第3次	かきじゅん	…2時間
第4次	かくのながさ	…1時間
第5次	かくのほうこう	…1時間
第6次	かきだすところ	…1時間
第7次	もじのかたち	…1時間
第8次	したのせんにそろえて	…1時間

6 本時の学習

(1) 目標

- 自分のめあてをもち、自分や友達のよくなったところを認め合いながら、意欲的に学習できるようにする。
- 「はらい」の書き方を理解して、正しく書くことができるようにする。

(2) 展開

学習過程	学習活動	教師の指導・支援	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 本時の学習のめあてをつかむ。 ・試し書きをする。	1 めあての焦点化が短時間で図れるようにする。 ・「はらい」の正しい書き方のポイントを示す。	ア① 自分のめあてをつかもうとしている。 (ワークシート)
	<div data-bbox="448 1494 1201 1787" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>「はらい」にきをつけてかこう。</p> <p>・「ひだりはらい」はだんだん力をぬいていく。 ・「みぎはらい」は一どとめて、よこにはらう。</p> <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div> </div>		
高める	2 「はらい」の書き方に気をつけて練習する。	2 自分のめあてに合った練習ができるように支援する。	

確 か め る	3 まとめ書きをする。 ・ 試し書きと比べて、自己評価や相互評価をする。	3 本時のめあてを確認してから書くよう、助言する。 ・ めあてにそった自己評価や相互評価ができるように働きかける。	ア② 試し書きとまとめ書きを比べて、自分や友達のよくなったところを見つけようとしている。 (ワークシート・観察)
生 か す	4 学習したことを生かす。	4 他の漢字の「はらい」も確かめさせ、学習したことを日常生活に生かすことができるよう意識づける。	イ① 学習したことを生かして書いている。 (ワークシート)

(3) 評価および指導の例

① 「十分満足できる」と判断できる状況

ア①	めあてをつかみ、進んで意欲的に書いている。
ア②	自分や友達の文字のよくなったところを、積極的に見つけようとしている。
イ①	「はらい」の書き方を理解して、正しく書いている。

② 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手だて）

ア①	めあてがつかみにくい子には、具体的に手本と試し書きを見比べるポイントを示し、自分のめあてをつかませた上で、適切な練習方法を指示する。
ア②	自分や友達の手文字のよくなったところを見つけられるように、ポイントを具体的に示す。
イ①	視覚・聴覚や触覚に訴える教材を使い、「はらい」の書き方を体得できるようにする。

第2学年国語科（書写）学習指導案

2年4組 児童数 26名
指導者 藤岡 美千代

1 単元 かん字の学しゅう

2 単元について

本学級の児童は、全員が字を上手に書けるようになりたいという思いをもって、学習に取り組んでいる。ところが、連絡帳や宿題、ノートなどでは、文字を書く回数や一度に書く文字数が増えるにつれて、丁寧に書こうとする意識が薄れ、学んだことがうまく生かされていなかったり、雑に書いたりしがちである。また、鉛筆の持ち方や姿勢も、継続して指導しているが、書き始めると崩れてしまうことがある。

これまでに、ひらがな、かたかな、漢字を学習し、基本的な筆使いや書き順に気をつけて書くことの大切さを学習してきた。前単元のかたかなの学習では、画の書き方や書き順、字形を学び、かたかなを正しく整えて書く学習に取り組んできた。連絡帳でも、文字を正しく書けるように練習用のマスを作り、継続して書いている。また、国語や生活科で、本の紹介カードや観察カード・野菜新聞を作り、友達に紹介する中で、伝えるために文字を大切に書かなければいけないという意識が、少しずつ芽生えてきている。

本単元では、漢字の字形を整えて書くための学習を行っている。字形を整えて書くための重要な要素（「書き順」「画の方向」「画のつき方・交わり方」「画と画との間」「文字の中心」「文字の形」など）を理解させ、正しく書けるような指導を心がけたい。

本時は、漢字の「文字の中心」の学習である。文字の中心は、字形を整えるうえでの重要な要素になる。しかし、子どもたちの文字を見てみると、文字の中心を意識して書いていないことが多い。そこで、字形を整えるためには、どこに着目して書けばよいかを理解させ、意識して書くようにさせたい。そして、自分のめあてを決め、めあてに合った練習方法を選び、めあてを達成するために進んで練習に取り組ませたい。また、自分や友達のよくなったところやがんばったところを見つけ、認め合うことで、文字を書くことの楽しさを味わい、さらに生活の中でも丁寧に書こうとする態度を育てたい。

3 単元の目標

- (1) 自分のめあてをもち、友達のよさを認め合いながら、意欲的に学習できるようにする。
- (2) 漢字の書き順や画の方向、画のつき方・交わり方、画と画との間、中心などの「字形の整え方」を正しく理解して、字形を整えて書くことができるようにする。
- (3) 字形や書き方の似ている文字に気をつけて、正しく書くことができるようにする。

4 単元の評価規準

ア	国語への 関心・意欲・態度	① 自分のめあてをもち、進んで学習に取り組もうとしている。 ② 自分や友達のよくなったところを見つけようとしている。
イ	言語についての 知識・理解・技能	① 書き順、画の方向、つき方・交わり方、画と画との間、中心などの「字形の整え方」を正しく理解して、字形を整えて書くことができる。 ② 字形や書き方の似ている文字に気をつけて、正しく書くことができる。

5 単元計画（16時間）

- 第1次 正しい書きじゅん … 2時間
- 第2次 画の方こう … 2時間
- 第3次 画のつき方・交わり方 … 1時間
- 第4次 画と画との間 … 2時間
- 第5次 文字の中心 … 2時間（本時1／2）
- 第6次 年がじょうと書きぞめ … 3時間
- 第7次 文字の形 … 2時間
- 第8次 にている文字 … 2時間

6 本時の学習

(1) 目標

- 自分のめあてをもち、自分や友達のよくなったところを認め合いながら、意欲的に学習できるようにする。
- 文字の中心のとり方を正しく理解して書くことができるようにする。

(2) 展開

学習過程	学習活動	教師の指導・支援	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 本時の学習のめあてをつかむ。 ・試し書きをする。	1 めあての焦点化が図れるようにする。 ・文字の中心のとり方のポイントを示す。	ア① 自分のめあてをつかもうとしている。 (ワークシート)
<p>文字の中心に気をつけて書こう。</p> <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">来</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">交</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">活</div> </div>			
高める	2 文字の中心に気をつけて練習する。	2 自分のめあてに合った練習ができるように支援する。	ア① 自分のめあてに合った練習方法を選び、練習しようとしている。 (観察)
確かめる	3 まとめ書きをする。 ・試し書きと比べて自己評価や相互評価をする。	3 本時のめあてを確認してから書くよう助言する。 ・めあてにそった自己評価や相互評価ができるように働きかける。	ア② 試し書きとまとめ書きを比べて、自分や友達のよくなったところを見つけようとしている。 (ワークシート) イ① 文字の中心のとり方を正しく理解して書いている。 (ワークシート)

生 か す	4 学習したことを生かす。	4 他の文字でも，中心に 気をつけて，日常の生活 に生かすことができるよ うにする。	
-------------	---------------	---	--

(3) 評価および指導の例

①「十分満足できる」と判断できる状況

ア①	自分のめあてをつかみ，自ら進んで意欲的に書いている。
ア②	自分や友達の文字のよくなったところを積極的に見つけようとしている。
イ①	文字の中心のとり方を正しく理解して書いている。

②「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手だて）

ア①	試し書きでできていないところを具体的に示して自分のめあてに気付かせ，適切な練習方法を助言する。
ア②	自分や友達のよくなったところが見つけられるように具体的なポイントを示す。
イ①	具体物やワークシートを使用して，文字の中心を意識して書けるように助言する。

第3学年国語科（書写）学習指導案

3年3組 児童数 29名
指導者 T1長谷部 貴子
T2蔭田 玉恵

1 単元 筆使いの学習

2 単元について

本学級の児童は、3年生から始まる毛筆を使った学習に意欲的に取り組んでいる。学年当初行った書写アンケートでも、26名が「毛筆で書くことが好き」と答え、「嫌い」と答えた3名は「上手に書けないから」という理由を挙げていた。また、書くことが楽しいと感じる時は、「上手に書けた時」や「先生や友達に褒められた時」という回答が圧倒的に多く、自分が満足し、人から見ても認められる文字を書きたいと思っていることがわかる。

学年当初は、毛筆用具の名称や使用法を覚えることから始まり、筆の持ち方や用具の扱い方などを学習した。現在では、含ませる墨の量も徐々に調節できるようになり、書き浸る姿も見られるようになってきている。また、授業の中に、友達との学び合いの時間を設けることにより、友達の筆の持ち方や姿勢、筆使いなど多くのことを学ぶことができている。友達からの助言や賞賛により、自分のよいところに気付き、頑張ろうという意欲にもつながっている。

本単元では、「横画」「縦画」「はらい」「おれ」「はね」の始筆・送筆・終筆の筆使いに気を付けて書くことを学んできた。本次では、かたかなの『ビル』を教材にして「曲がり」と「点」の筆使いを理解し、正しく書くことを学習する。前次には、ひらがなの教材『つり』で曲がりの筆使いを学習しているが、本教材では方向が違うこともあり、曲がりの筆使いを定着させるためにもしっかりと練習させたい。また、濁点については、ノート等の硬筆で書いた文字を見ると、長さや位置が誤っているものや無造作に書いているものが多い。毛筆で丁寧に書くことを通して、位置を確認し、一つの画として丁寧に書くことを身に付けさせたい。そして、硬筆で筆使いを確かめながら正しく書くことにより、日常の書字活動に生かせるようにしたい。なお、本時では、前時で学習した「曲がり」と「点」の筆使いを確認し、さらに字形を整えて書く学習をする。

本校では、毛筆を使った学習の初期段階である3年生にチームティーチングを取り入れている。それにより、少しでも多くの児童の手を取って指導することができ、よい姿勢を始め、筆使いなどの基礎・基本を身に付けさせることができる。また、練習過程での頑張りやつまづきなどの様子を多く知り、多面的な評価が行える。そして、違った角度から児童のよさを見つけることもできる。このように、学習の初期段階で細やかな指導・支援をすることで文字を書くことが好きになり、楽しんで書くことができる子どもが育つと考える。好きで楽しんで書くということは、進んで書くことにつながり、それは文字への関心を高めることになる。このことは、書写学習のねらいである「文字を正しく整えて書く」ということにつながるであろう。

書写学習を通じて、友達どうしでよくなったところや頑張ったところを認め合い、自分や友達のよさを見つけながら、さらに自分を高めていくことができるように支援していきたい。そして、日常の書字活動の中でも文字を大切に、楽しんで書くことができる子どもに育てたい。

3 単元の目標

- (1) 自分のめあてをもち、友達と学び合いながら、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。
- (2) 基本点画の筆使いを理解し、正しく書くことができるようにする。
- (3) 毛筆に親しみ、よい姿勢や持ち方で書くことができるようにする。

4 単元の評価規準

ア	国語への 関心・意欲・態度	① 自分のめあてをもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 ② 自分や友達のよさを見つけ、認め合おうとしている。
イ	言語についての 知識・理解・技能	① よい姿勢や持ち方に気を付けて書くことができる。 ② 基本点画の筆使いを理解して、正しく書くことができる。

5 単元計画（19時間）

第1次	横画『一二』	…2時間
第2次	縦画『土』	…3時間
第3次	はらい『人』	…2時間
第4次	おれとはね『力』	…3時間
第5次	ひらがな『つり』	…3時間
第6次	かたかな『ビル』	…3時間（本時2／3）
第7次	筆使いのまとめ『友だち』（書きぞめ）	…3時間

6 本時の学習

（1）目標

- 自分のめあてをもち、自分や友達のがよくなったところを認め合いながら、意欲的に学習できるようにする。
- 「曲がり」と「点」の筆使いに気を付けて、字形を整えて書くことができるようにする。

（2）展開

学習過程	学習活動	教師の指導・支援	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 前時のまとめ書きを見て、本時のめあてをつかむ。	1 「曲がり」と「点」の筆使いを確認させるとともに、字形を整えるためのポイントを示す。 T1 一斉指導 T2 個別指導	ア① 自分のめあてをつかもうとしている。 (観察)
高める	2 自分のめあてに向かって練習する。	2 基準を確かめて書くように声をかけ、個別に支援する。 T1, T2 個別指導	イ② 「曲がり」と「点」の筆使いに気を付けて、字形を整えて書こうとしている。 (観察)
確かめる	3 めあてにそって練習できたか振り返る。 ・まとめ書きをする。 ・相互評価 ・自己評価	3 「曲がり」と「点」の筆使いが正しくできているか、字形が整っているかを確かめ、評価するように促す。 T1 一斉指導 T2 個別指導	ア② 自分や友達のがよくなったところを見つけようとしている。 (観察) (振り返りカード)

「曲がり」と「点」の筆使いに気を付けて字形を整えて書こう。

- ・筆使い
- ・始筆、点の位置
- ・文字のかたち

生 か す	4 「曲がり」や「点」のある文字を見つけ	4 「曲がり」や「点」がある文字を探させ、筆使いは同じであることを確かめさせる。 T1, T2 一斉指導	
-------------	----------------------	---	--

(3) 評価および指導の例

① 「十分満足できる」と判断される状況

ア①	自分のめあてを的確につかんでいる。
ア②	めあてにそって自分や友達のよくなったところを見つけ、認め合うことができている。
イ②	「曲がり」と「点」の筆使いを理解して、字形を整えて書いている。

② 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手だて）

ア①	<ul style="list-style-type: none"> ・手本と前時のまとめ書きを見比べる時のポイントを示す。 ・分解文字を操作しながら、字形を整えるためのポイントを示す。
ア②	見るポイントを示し、よくなったところが見つけれられるように支援する。
イ②	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの手を取って一緒に書き、筆使いを体得させる。 ・めあてに合った練習用紙が選べるよう助言する。

第4学年国語科（書写）学習指導案

4年3組 児童数33名
指導者 吉成 郁美

1 単元 文字の組み立て方

2 単元について

本学級の児童は、4月に行った書写アンケートの結果から、そのほとんどが「文字をきれいに書くことができるようになりたい」と願っていること、学級の3分の1近くの児童が「文字をうまく書けない」、「筆がうまく使えない」という実態がわかった。3年生から毛筆を使った学習を始め、用具の準備・片付け、筆の持ち方やよい姿勢などの書写の基本動作を学び、横画、たて画など基本の筆使いの学習をしてきている。しかし、毛筆での学習の様子を見ていると、傷んだ筆で練習していたり、姿勢が乱れたりしている児童もいた。それは、準備・片付け・姿勢など毛筆書写の基礎・基本が十分身につけていないことが原因だと考えられる。

そこで、学年当初に準備・片付けの方法を書いたカードを掲示することで、準備や片付けが少しずつではあるが、手早くできるようになってきた。また、学習のはじめに姿勢や筆の持ち方の確かめ合いをすることで姿勢・執筆に気をつける児童が増えてきた。そして、振り返りカードを利用することで、以前よりうまく書けるようになったと感じ、より丁寧に書こうとする児童も増えてきている。さらに、「文字をきれいに書けるようになりたい」というアンケートの結果を踏まえて、字形の整え方を正しく理解させ、字形を整えて書くことの必要性を感じることができるよう、分解文字を使った指導を続けてきている。

本単元では、「左右」と「上下」の文字の組み立て方を正しく理解し、字形を整えて書くことを学習する。毛筆で書くことによって「左右」「上下」のはばや高さのゆずりあい、点画の変化を理解できるようにする。本時は、前時までの学習から得られたことをもとにして、自分のめあてを設定し、教材を選択する学習を経験させる。実態調査から「左右」「上下」の組み立ての文字を整えて書いていない児童もたくさんいた。そこで、「左右」「上下」のはばと高さのとり方についての知識を習得させることで、文字の組み立て方を理解し、字形の整え方を身につけ、日常の文字を書く活動にも生かすことができると考えた。そのことによって、アンケートにでてきた「文字をきれいに書けるようになりたい」という児童の願いを達成できるのではないかと考えている。そのための手だてとして、分解文字の活用や外形を意識させるような練習用紙の工夫をし、自分のめあてに合ったものを選択できるようにしたい。そして、友達とのかかわりを通して、文字を書いた時の達成感や自分の文字に自信をもたせたい。

3 単元の目標

- (1) 自分のめあてをもち、友達と学び合いながら、自ら進んで学習に取り組むことができるようにする。
- (2) 「左右」「上下」の文字の組み立て方を正しく理解できるようにする。
- (3) 「左右」「上下」のはばと高さのとり方に気をつけて、字形を整えて書くことができるようにする。

4 単元の評価規準

ア	国語への 関心・意欲・態度	① 自分のめあてをもち、自ら進んで学習に取り組もうとしている。 ② 友達と学び合いながら、自分や友達のよさを見つけ、認め合おうとしている。
イ	言語についての 知識・理解・技能	① 「左右」「上下」のはばと高さを正しく理解して、書いている。 ② 「左右」「上下」のはばと高さに気をつけて、字形を整えて書いている。

5 単元計画 (9時間)

「左右」「上下」

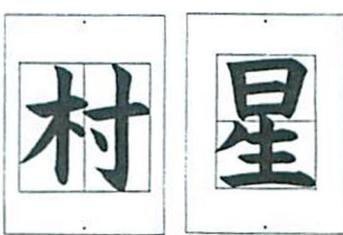
- ・『秋』 … 2時間
- ・『星』 … 1時間
- ・『村』『星』 … 1時間 (本時)
- ・硬筆 … 2時間
- ・まとめ『美しい朝』(書きぞめ) … 3時間

6 本時の学習

(1) 目標

- めあてに合わせた教材を選び、自分や友達のよさを見つけ認め合いながら、自ら進んで学習に取り組むことができるようにする。
- 「左右」「上下」のはばと高さを正しく理解し、字形を整えて書くことができるようにする。

(2) 展開

学習過程	学習活動	教師の指導・支援	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 本時の学習のめあてをつかむ。 ・「左右」または「上下」の組み立て方でできている文字であることを知る。 ・試し書きをする。	1 「左右」または「上下」の組み立て方に気をつけて書くことができたかに目を向けさせる。	
	<p>「左右」「上下」の組み立てや文字の整え方に気をつけて書こう。</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 20px;">『村』・へんとつくりの横画のはばのとり方 ・四画めの止め</div> <div style="margin-right: 20px;">『星』・上の部分と下の部分の高さとはば</div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>		
高める	2 めあてに合わせた練習用紙を使って練習する。	2 自分のめあてに応じた練習ができるように支援する。	ア① めあてに合わせた教材を選び、めあてに向かって進んで学習に取り組もうとしている。 (観察)
確かめる	3 まとめ書きをする。 ・試し書きと比べて、自己評価や相互評価をする。	3 めあてを確認してから、書かせる。 ・めあてにそった自己評価や相互評価ができるように働きかける。	イ② 「左右」または「上下」のはばや高さ気をつけて字形を整えて書くことができる。 (まとめ書き) ア② 自分や友達のよさを見つけ、認め合うことができる。 (評価カード)
生かす	4 「左右」「上下」の組み立て方の文字を仲間分けをする。	4 毛筆で学習したことをもとに、さらに「左右」「上下」の組み立て方の文字について理解を深めさせ日頃 使う文字に目を向けさせる。	

(3) 評価および指導の例

①「十分満足できる」と判断される状況

ア①	めあてに合わせた教材を選び，進んで学習に取り組むことができている。
ア②	めあてに合わせて，自分や友達のよさを見つけ認め合うことができている。
イ②	「左右」または「上下」のはばと高さに気をつけて，字形を整えて書いている。

②「おおむね満足ができる」状況を実現するための具体的な指導（手だて）

ア①	教師とめあてを確認した後，課題に応じた練習用紙の選び方を指示する。
ア②	お互いのめあてを確認させ，「左右」「上下」のはばと高さに気をつけるという観点を示す。
イ②	子どもに手を添えて書くことで，「左右」または「上下」の正しい組み立て方に気づくようにする。

第5学年国語科（書写）学習指導案

5年2組 児童数 31名

指導者 秋田 泰宏

1 単元 文字の組み立て方

2 単元について

「文字に関するアンケート（5/7調べ）」によると、本学級の児童で、文字を書くことが「好き」と答えた児童は、55%である。それに対して「嫌い」は、45%であった。しかし、別の設問では、97%の児童が「きれいに書けるようになりたい」と答えている。

児童の願いを叶え、本校研究主題を達成するためには、次の2点が重要だと考える。

(1) 整った文字を書くための原理原則をできるだけシンプルな形で教えること

(2) 教えて考えさせる指導

(1) については、富澤敏彦氏が提唱する「右上がり六度法・等間隔法・右下重心法」が、児童の実態に合っていると判断し、取り入れることにした。

(2) については、新学習指導要領の「習得」「活用」を意識してのことである。(1)で示した原理原則を教え、他の教材文字ではどのように当てはまるのかを考えさせる活動などはそれにあたる。

以上2点を意識して指導してきた結果、約2ヶ月後に行ったアンケート（6/27調べ）では、「5年生になる前と比べて、文字がうまく書けるようになったと思うか」という設問に対して、80%の児童が「思う」と答えている。また、「5年生になる前と比べて文字を書くことが好きになったか」という設問に対しては、72%人の児童が「好きになった」と答えている。（前回比+17%）これらは、上記2点の指導の結果であろう。しかし、日頃のノート等から判断して、7月現在、「右上がり六度・等間隔・右下重心」が身につけている児童、つまり整った文字が日常的に書けるのは、5人である。

本単元では、文字の「上下」「左右」「による」「かまえ」の組み立て方を学習する。その際のキーワードは「ゆずり合い」「つり合い」である。前述した実態をふまえ、児童に「六度の罫線を印刷した手本」「整っていない文字例」「組み立て方のパターン例」を与えれば、児童はこれまでの学習経験を生かして、自分たちで教材文字を学習していくと考える。「自分たちで教材文字を学習しようとする」、これは「書写学習に自ら取り組んでいる」姿であり、本校研究主題を達成した状態であるといえる。また、そういった指導を継続することで、基礎基本が「身に付く」と考える。

本時では「かまえ」のある漢字をあつかう。使用している教科書では、『新風』という教材文字で「風がまえ」を学習することになっている。しかし、『仲間』という教材文字に変更した。その理由は以下の通りである。

・学習したことが他の文字に生かしやすい。

・継続して学習している「右上がり六度法・等間隔法・右下重心法」を駆使できる。

小学校段階で学習する文字で「風がまえ」のある漢字は『風』一文字である。それに対し「門がまえ」のある漢字は、8文字である。それらについては、本時の「生かす」段階でもあつかうこととする。学習したことを他の文字に転用することで、基礎基本が「身に付く」と考える。

書写の学習を通じて、生涯、文字を大切に、整った文字が書けるように、との願いを持ち指導する。

3 単元の目標

- (1) 文字の組み立て方について、自分のめあてをもち、自分や友達のよさを認め合い、学び合いながら、自ら進んで学習に取り組むことができるようにする。
- (2) 文字の組み立て方について理解できるようにする。
- (3) 「ゆずり合い」「つり合い」に気をつけて、字形を整えて書くことができるようにする。

4 単元の評価規準

ア	国語への 関心・意欲・態度	① 自分のめあてをもち、どうすればそれが達成できるのかを考えて学習を進めようとしている ② 友達どうし関わり合いながら、学習を進めようとしている。
イ	言語についての 知識・理解・技能	① 文字の組み立て方が分かる。 ② 右上がり六度・等間隔・右下重心・ゆずり合い・つり合いに気をつけて書くことができる。

5 単元計画（12時間）

- 第1次 左右の組み立て方 『土地』 …3時間
 第2次 上下の組み立て方 『岩山』 …3時間
 第3次 によの組み立て方 『進む』 …3時間
 第4次 かまえなどの組み立て方 『仲間』 …3時間（本時1／3）

6 本時の学習

(1) 目標

- 「門がまえ」とその他の部分の組み立て方について、自ら進んで学習することができる。
- 「門がまえ」とその他の部分の組み立て方を理解し、つり合いに気を付けて書くことができる。

(2) 展開

学習過程	学習活動	教師の指導・支援	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 学習のめあてをつかむ ・フラッシュカードを読む。 ・ためし書きをする。 ・気付いたことを手本に書き込む。 ・気付いたことを伝え合う。	1 フラッシュカードを使い「かまえ」で組み立てられた漢字を読ませる。 ・字形の整っていない文字を提示し、修正させる。 ・友達どうし考えを伝え合う場面をもうける。	ア① 友達どうし考えを伝え合い、進んで学習に取り組もうとしている。 (手本・発表)
「門がまえ」とその他の部分の組み立てに気をつけて書こう。 ・右上がり六度になっているか。 ・等間隔になっているか。 ・右下重心になっているか。 ・門がまえと「日」のつり合いがとれているか。			

高める 確かめる 生かす	2 自分のめあてに気をつけて練習をする。	2 自分のめあてに合った練習用紙を選んで書かせる。	イ① 「門がまえ」とその他の部分について、つり合いに気を付けて書くことができる。 (観察) ア① 友達どうしでよさを伝え合っている。 (観察・評価シール) イ② 「門がまえ」とその他の部分でできた漢字を5つ以上見つけ、字形を整えて書くことができる。 (ワークシート)
	3 まとめ書きをする。 ・友達どうし評価し合う。	3 再度自分のめあてを確認させる。 ・評価を言葉で伝えさせる。	
	4 他の漢字で「門がまえ」で組み立てられた漢字を探し、硬筆で書く。	4 ワークシートに硬筆で書かせる。 ・字形を整えて書けているか全体の前で確認をする。	

(3) 評価および指導の例

① 「十分満足できる」と判断できる状況

ア①	友達どうし考えを伝え合い、進んで学習に取り組もうとしている。
イ①	「門がまえ」とその他の部分について、右上がり六度・等間隔・右下重心・つり合いに気をつけて書くことができる。
②	「門がまえ」とその他の部分でできた漢字を5つ以上見つけ、書くことができる。

② 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手だて）

ア①	<ul style="list-style-type: none"> ・整っていない形の文字をいくつか提示する。 ・隣どうしや学級全体で、自分の考えを伝え合う場面を設ける。
イ①	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書巻末の資料や辞書を参照させる。 ・伏線としてフラッシュカードで「かまえ」のある文字を提示する。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータで字形の整っていない文字を提示し、それを児童自身に修正させる。 ・「つり合い」がうまくいかない場合は、外形を鉛筆で薄く書かせる。 ・六度の罫線を印刷した手本を配付する。 ・六度の罫線を印刷した紙を半紙の下に敷かせる。

第6学年国語科（書写）学習指導案

6年2組 児童数 33名
指導者 林 哲史

1 単元 字配りの達人

2 単元について

5月にとった書写アンケートによると、本学級の約7割の児童が毛筆で文字を書くことを好きではないと答えている。その理由として一番多く挙げられたのが、「うまく書けないから」である。その反面、ほとんどの児童が、文字を丁寧に書けるようになりたいと願っている。また、書写の時間楽しく感じるのは、「自分でうまく書けたと思った時」「めあてが達成できた時」という児童が多い。この結果から、文字を丁寧に書けるようになりたいと思っているものの、なかなかうまく書くことができない、書けた時は楽しいが、なかなか書けないので毛筆は好きでない、という本学級の児童の実態が浮かび上がってくる。

これまで6年生では、文字の組み立て方に気をつけて形を整えて書くこと、文字の大きさに気をつけて文字を調和させて書くことを学習してきた。また、4月から、連絡帳「飛翔」の中の「ふでっちマンコーナー」で、ひらがなやカタカナ、漢字の練習を積み重ねてきた。硬筆で文字を書くことが好きだと答えている児童が約6割、「文字を丁寧に書こうと思うようになった」「字がきれいに書けるようになった」と考えている児童も半数近くおり、お礼の手紙や書写ノートなどを書く時には、文字を丁寧に書こうとする意識は高まりつつある。だが、普段の宿題やノートに書いている文字などを見ると、いつも文字を丁寧に書いている児童は多くない。また、日常的に、文字の大きさや行の中心などを意識して、字配りよく書いているとはいえない。

書写に関して「がんばっている友達に気付いたか」という質問に対して、7割を超える児童が「気付いたことがある」と答えている。友達にほめられたときに書写を楽しく感じる児童も約3割おり、自分だけでなく、友達の学ぶ姿に意識が向き、友達とのかかわりがよい影響を及ぼしているとも言える。授業の中で、互いによいところを見つけ、認め合ったり、アドバイスし合ったりする場を設定することにより、互いに学び合い、伸びていこうとする意識を育てていきたい。

本単元では、ひらがなどうし、漢字とかなの字配りの仕方について正しく理解し、字配りよく書くことをねらいとしている。字配りよく書くためには、文字の大きさや形、行の中心、間のあけ方などに注意を払う必要がある。そこで、それらの一つを自分のめあてとして選ばせ、めあてにあった練習用紙を自作させ、めあて達成に向けて練習に取り組ませることとした。支援策としては、補助線を入れた手本や練習用紙を利用することにした。それにより、始筆、終筆の位置をつかませることができ、字配りよく文字を書くことができると考える。また、書写の時間の学習が、日常の書字活動に生かせるように、児童が日頃よく使う鉛筆やフェルトペン、筆ペンを用いて書く教材を単元の中に入れていくことにした。

本時では、『わき水・思いやり・羽ばたけ鳥』の3つの教材文字から、自分で1つ選択して学習する。『温かい心』での字配りの学習を生かして、自分のめあてをもち、めあてに向かって工夫しながら、学習に取り組むことができるようにしたい。

自分のめあてが達成できた、字配りよく、字形の整った文字が書けた、友達に認められた、そのような体験を積み重ねることにより、文字を書くことに喜びを感じ、書写に意欲的に取り組む児童を育てたい。

3 単元の目標

- (1) 自分のめあてをもち、自分や友達のよさを認め合い、学び合いながら、自ら進んで学習に取り組むことができるようにする。
- (2) ひらがなどうし、漢字とかなの字配りの仕方について正しく理解できるようにする。
- (3) 文字の大きさや形、行の中心、間のあけ方に気をつけて字配りよく書くことができるようにする。

4 単元の評価規準

ア	国語への 関心・意欲・態度	① 自分でめあてをもち、めあてに向かって自ら進んで学習に取り組もうとしている。 ② 自分のよさや友達のよさを見つけ、認め合い、友達のよさに学ぼうとしている。
イ	言語についての 知識・理解・技能	① ひらがなどうし、漢字とかなの字配りについて正しく理解している。 ② 文字の大きさや形、行の中心、間のあけ方に気をつけて字配りよく書くことができる。

- 5 単元計画（15時間）
- 第1次 ひらがな『しらかば』 … 3時間
 - 第2次 漢字とひらがな
 - ・『温かい心』 … 2時間
 - ・『わき水・思いやり・羽ばたけ鳥』（選択教材） … 4時間（本時2／4）
 - ・『夢を育てる』（書きぞめ） … 3時間
 - 第3次 漢字とひらがなとかたかな『アジアの仲間』 … 3時間

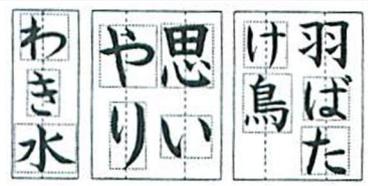
6 本時の学習

- (1) 目標
- 自分のめあてをもち、自分や友達のをさを認め合い、学び合いながら、自ら進んで学習に取り組むことができるようにする。
 - 文字の大きさや形、行の中心、間のあけ方に気をつけて、選んだ教材文字を字配りよく書くことができるようにする。

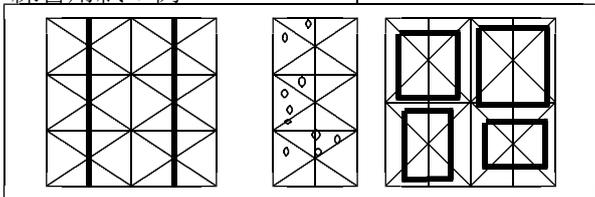
(2) 展開

学習過程	学習活動	教師の指導・支援	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 前時のまとめ書きから本時のめあてを確かめる。	1 前時の学習を想起させ、めあてを確認させる。	
高める	2 練習用紙を自作し、練習する。	2 自分のめあてに応じた練習ができるように支援する。 ・各自のめあてを明確にするためにめあて提示のぼりを活用する。 ・練習用紙が自作できない子どもには、作り方を助言したり、既成の用紙を提示したりする。	ア① 自分でめあてをもち、めあてに向かって進んで学習に取り組もうとしている。（観察）
確かめる	3 まとめ書きをする。 ・前時のまとめ書きと比べて、自己評価や相互評価をする。	3 めあてを確認してから書くように助言する。 ・めあてにそった自己評価や相互評価ができるように支援する。	イ② 文字の大きさや形、行の中心、間のあけ方に気をつけて字配りよく書いている。（まとめ書き） ア② 自分のよさや友達ちのよさを見つけ、認め合い、友達ちのよさに学ぼうとしている。（観察） (振り返りカード)
生かす	4 掲示された短冊を見て、字配りの仕方について確認する。	4 学習したことを次時の学習に生かせるように意識付けする。	

文字の大きさや形、行の中心、間のあけ方に気をつけて字配りよく書こう。



練習用紙の例



(3) 評価および指導の例

① 「十分満足できる」と判断される状況

ア①	自分のめあてをもち、めあてに向かって自ら工夫しながら、進んで学習に取り組んでいる。
ア②	めあてに照らし合わせて、自分や友達のよさを見つけ、認め合い、友達のよさに学ぼうとしている。
イ②	文字の大きさや形、行の中心、間のあけ方に気をつけて字配りよく正しく書くことができる。

② 「おおむね満足ができる」状況を実現するための具体的な指導（手だて）

ア①	練習用紙や練習の仕方を助言する。
ア②	互いのめあてを確認させ、評価の観点を示す。
イ②	始筆などの位置を一緒に確認したり、子どもの手を取って一緒に書いたりする。

中・高学年提案発表

文字を大切にし，生きる力をはぐくむ書写学習

－基礎・基本を身に付け，生き生きと取り組む書写学習－

三好市王地小学校教諭 松本 珠実

1 はじめに

2 研究主題について

3 指導の実際

(1) 児童の実態

(2) 書写学習における指導

(3) 他教科・他領域と関連した指導

(4) 日常生活における文字に親しむための工夫

4 成果と今後の課題

5 おわりに

《講 演》

「書くことの重要性」

四国大学教授 蓑 毛 政 雄 先生